

押小だより
てんしんらんまん

天真爛漫



令和6年2月1日
さくら市立押上小学校
令和5年度 第15号
文責：仁平 博幸

「ありがとう」は「〇〇の言葉」

前回の学校便りで紹介しましたが、12月に「感謝の集い」を行いました。これは、児童会の行事で、日頃お世話になっている地域の方々をお招きして、感謝の気持ちを伝えるものです。

交通指導員さんやスクールソポーターさん、読み聞かせボランティアやさまざまな学校支援ボランティアのみなさん、まつのみパトロールのみなさんなどにお越しいただきました。

児童会による司会進行のもと、子どもたちから、学年ブロックごとにダンスの披露と「ありがとう」のメッセージを伝え、続いて、全校児童が書いた感謝のお手紙を贈呈しました。どの子どもも、全力でしっかりと感謝を伝えるよう踊ったりメッセージの言葉を言うことができていたと思います。



感謝の手紙も、私も一枚一枚目を通し、心を込めて書いていることが分かりました。お越しいただいたみなさまに、少しでも子どもたちと学校からの感謝の気持ちが伝わったなら幸いに存じます。

さて、会の最後の「学校長の話」で、私からは、お越しいただいた方々に、日頃からお世話になっていることに対するお礼を伝え、子どもたちには、次のような『『ありがとう』は魔法の言葉』というお話をしました。

「ありがとう」という5文字は、どんな言葉でしょう。

校長先生は、「ありがとう」は「魔法の言葉」だと思っています。どんな魔法かというと、「言われた人がうれしくなる魔法」そして、「言われた人が『次もがんばろう』とやる気が出る魔法」です。「ありがとう」と言われていやら気持になる人はいません。

ですから、感謝をあらわす「ありがとう」という言葉は「人を幸せにする魔法の言葉」と言えますね。

押上小には「ありがとう」を言っている子もたくさんいます。これからも、いつでも、どこでも、感謝の気持ちをもって、「ありがとう」「ありがとうございます」という言葉が言える、そんな押小っ子がどんどん増えていくといいなと思います。そうすると、みんながうれしくなって「幸せ」を感じるクラス、そして「幸せ」を感じる学校になっていくと思います。これからもみんなで仲よく、感謝の気持ちをもって、「魔法の言葉」の「ありがとう」をたくさん使っていってほしいと思います。

この『『ありがとう』は魔法の言葉』というキーワードは、以前に勤めていた学校で、地域の方が子どもたちにお話しされていたもので、とても大切にしたいことだなと思っていたことでした。

子どもたちにはこのような話をしたわけですが、果たして自分は「ありがとう」を言っているだろうかと考えてしまいました。日々の忙しさでついつい抜けていないか、自分を振り返り、周りを見渡し、感謝することを忘れずにいていきたいと思いました。

よろしければ、ぜひ、ご家庭や地域でも、この「魔法の言葉」である「ありがとう」をたくさん伝え合ってもらえたうれしく思います。この「ありがとう」が、ご家庭を、地域を、さらに「幸せ」感じるものにしてくれると信じています。

改めて、地域の皆様、ボランティアの皆様、ありがとうございます。引き続き、子どもたちのためにお力をお貸しくださいますよう、よろしくお願ひいたします。(仁平博幸)



子どもの力と可能性は無限大

年末のお話です。3年生が体育の授業で一輪車と竹馬を練習していました。「多様な動きをつくる運動」という学習で、体のバランスをとる動きや体を移動する動き、用具を操作する動きに取り組む単元です。

私も外へ出て子どもたちの練習のお手伝いをしました。「少し前に傾けて」「その場で足踏みしてごらん」など、子どもたちの竹馬を支えながら伝えました。

そして、練習していたある子が、「校長先生！1歩歩けた！」とうれしそうに教えてくれました。「1歩進めたということは、2歩3歩いけるということだよ。がんばって！」と私も伝えました。すると、5分後には、その子は2歩、3歩と歩けるようになってきました。

見ていると、はじめできなかつた子どもたちがぐんぐん上達しています。もちろん、個人差があるので、ゆっくり上達している子もいれば、みるみるうちに上達している子もいます。でも、共通して言えるのは、上達を感じると「もうちょっとがんばろう」「もっとこうなりたい」という気持ちが芽生えて、集中してさらに挑戦し上達していくことです。

こんな姿も見られました。4年生の子どもたちも、休み時間に竹馬がブームになっていました。

◆この子は、はじめ竹馬に乗るとどうしても後ろに下がってしまっていました。(重心が後ろにいってしまうせいですね)「竹馬を前に押し出す感じで…」と伝えました。何度も何度もタイヤのところで練習です。

すると、3日ぐらい経った頃でしょうか。業間休みに外へ出てみると「校長先生！前に歩けるようになりました！」とその子はうれしそうに竹馬にチャレンジしています。見てみると、2~3歩ですが、前に歩いています。そして、一週間後には足場を高くして、かなり安定して乗れるようになっていました。

◆この子は、はじめバランスがとれず、乗ってもすぐに落ちてしまっていました。でも、何度もチャレンジします。私もちょっとだけお手伝いして、竹馬を押さえたり、「その場で足踏みをしてごらん」などアドバイスしたりしながら様子を見ていました。すると、1歩だけですが前に進むようになり、「竹馬をがんばろう！」と俄然やる気を出していました。

次の日も次の日も休み時間、その子は竹馬にチャレンジしていました。

やはり3日ぐらい経った頃でしょうか。「校長先生！けっこう歩けるようになりました！見てください！」と笑顔で教えてくれました。見てみると、バランスをよくとりながら3~4歩竹馬で歩いています。

冬休みが終わった1月、この二人は、すっかり安定して乗れるようになって、今度は乗る位置をさらに高くして歩くことにチャレンジしています。

このような子どもたちの姿をとおして、子どもの力や可能性は無限大で、想像を超えるものがあるとあらためて感じました。

子どもたちの「もうちょっとでできそうだ」という気持ちが、「がんばってみよう」のエネルギーになり、目標達成に近づき「できた！」「分かった！」という充実感と達成感につながります。我々大人はその手助け、お手伝いをする必要があると思っています。

年度末が近づき忙しくなりますが、子どもたちの力と可能性を信じて伸ばし、充実感や達成感を味わせ、やる気や本気を育てていくことを大切に、教育活動を進めていきたいとあらためて感じています。

◎1月の学校の様子をお知らせします。

1月17日（水）○長縄跳び大会（全校生）

児童会（運動委員会）主催の大会で、まつのみ班で長縄の回数を競いました。

練習会も企画し、本番を迎えました。どのチームも高学年を中心に一生懸命がんばりました。応援やアドバイスもとてもよかったです。すてきな企画をありがとうございました。



押上小がこんな学校に…

「一人一人が主人公の学校」

「みんなが幸せを感じる学校」

「『また明日ね』と

笑顔で帰れる学校」

